

1997年8月19日(火) 流通サービス新聞 物流・地域・商店街 日本ロジファクトリー 米LTDと提携3PLノウハウ導入 / 物流業務支援力を強化

日本ロジファクトリー (NLF、大阪市中央区南船場2の11の18、青木正一社長、06・6245・3368)は、企業の物流業務支援力を強化するため、米国・フィラデルフィアの物流コンサルティングサービス会社、LTD・マネジメント社 (トム・クレイグ社長)と提携した。LTD社は米国を中心に台頭している「サード・パーティー・ロジスティクス」(3PL)と呼ばれる物流代行サービス業の実績を重ねており、NLFが目指す最新の3PLノウハウ導入に強力なパートナーを得たことになる。

アウトソーシングを効率化

NLFは宅配トラックのドライバーや船井総合研究所で物流開発チームのチーフなどを務めた経験を持つ青木社長が96年7月に創業した、物流コンサル主体の3PL。物流業務の効率的なアウトソーシング(外注化)を促進し、荷主企業、物流企業双方にメリットのある物流および物流管理業務の請負、物流システム・ネットワークのプランニング、物流センター開発事業などを進めている。

荷主への指導、コンサル活動を具体化するための、倉庫やトラック業者の組織化も進めており、当面、営業力強化に熱心な売上高5億 - 100円程度の物流業者間500社の登録を目指している。同時に今回提携したLTD社を通じて、米国を中心に大きく成長している3PLのノウハウを吸収、コンサル活動や実務に生かしていく。

3PLは車両や流通センター、倉庫などの資産を持たず、現有のハードにとらわれることなく荷主に最適な物流システム、戦略を提供するロジスティクス業者をいう。米国では80年代の不況に伴うリストラとアウトソーシング化の進展に、物流規制緩和の動きが加わって次第に業界形成された。

日本の場合も約10年遅れて同様な環境にあり、大手商社や専門卸などが3PL進出の動きを見せている。